

あかたにちく か どうへいそくたいさく
赤谷地区 河道閉塞対策



SABO-DATA

所在地:奈良県五條市大塔町

河川名:新宮川水系川原樋川赤谷川

形式:砂防堰堤、床固工群、溪流保全工

規模:崩壊土砂量約1,138万 m^3

(幅460m、長さ850m)

施行者:国土交通省

着工/完成:平成23年(2011)

令和 6年(2024)



平成23年9月災害時の状況

基本情報

奈良県五條市大塔町の赤谷地区は、平成23年9月の台風第12号(紀伊半島大水害)により斜面が崩壊し、約1,138万 m^3 の土砂が河道を閉塞、湛水池を形成しました。河道閉塞部の堆積土や崩壊地内の不安定土砂の二次移動により、下流の清水、長殿、宇宮原、上野地地区で甚大な被害が生じる恐れがあるため、3基の砂防堰堤、床固工群、溪流保全工を整備しました。

こだわりの技術

赤谷3号砂防堰堤は崩壊斜面直下に配置されており、大雨等で斜面が再崩壊する恐れがあったため、工事の安全確保の観点から、砂防事業では全国初となる自動化施工技術を導入しました。

自動化施工とは、事前に定めたプログラムに従い、重機が自動で工事を進める最新技術で、コンクリートブロック(外部保護材)設置作業とソイルセメント(内部材)敷均し・転圧作業を自動化で行いました。これにより遠隔操作による無人化施工でも実現可能な工事の安全確保に加え、施工の効率化や省人化も実現しました。